

巻 頭 言

『異文化経営研究』第17号発刊にあたって

2020年は未曾有の国難、また世界難と言える年となった。会員の皆さまやご家族がお元気にお過ごしであるよう、祈るような気持ちでこの巻頭言をしたためている。

さて、このような中であって、『異文化経営研究』(Transcultural Management Review) 第17号を発行することができたことは、大きな喜びである。まずは、発行に至るまで多大なご尽力をいただいた執筆者や編集者をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼を申し上げる。本号には、レフリーによる査読を経て選ばれた研究論文3篇、研究ノート2篇に加えて、招聘論文1篇と研究大会の講演抄録1篇が掲載されている。本号に向けては多くの投稿があったが、審査の過程でアクセプトされなかったものもある。ぜひ、指摘された内容を精査して書き直し、次号で再挑戦していただきたい。採択されなかった方々も含め、投稿された方々の努力と勇気を称えたい。

振り返れば、2020年2月以降しばらくは、大学での新型コロナウイルスへの対応に追われ、オンラインで学会を開催することができなかつたことをお詫び申し上げる。ようやく、6月の中部部会からZOOMによる開催ができるようになり、その後は地域部会、研究大会そしてインターナショナルセッションもオンラインで開催し、期待以上の成果を上げることができ、感謝でいっぱいである。オンラインでの開催により利便性が増して参加者が増えたことはオンラインの利点である。その反面、直接会って話をする機会がないため、学会の副産物であると思われる unexpected encounters (予期せぬ偶然の出会い) がなく、ネットワークの広がりという意味では物足りないという弱点も感じられた。ただ、参加者のフィードバックからは、海外からの参加も可能であり、時間的制約も少ないため、オンライン開催を続けてほしい、という声もあったので、今後の学会のあり方について考えていきたい。

2023年に20周年を迎える本学会がここまで発展することができたのは、言うまでもなく会員の皆様のご支援のおかげである。心より厚く御礼を申し上げたい。

これからも学会という研鑽の場で交流を深め、より良い世界を子孫に残すべく、皆様とご一緒に進んで行きたいと願っており、一層のご支援をお願いする次第である。

2020年12月

異文化経営学会 会長

馬 越 恵 美 子

『異文化経営研究』第17号 目次

巻頭言 第17号発刊にあたって 馬越恵美子

招聘論文

異文化を超える日本的サービスへ—先進企業の事例から—
桑名義晴 ……………1

研究論文

インバウンド・ツーリズム産業における
持続可能なビジネス・エコシステム構築に向けて
—米国ナパバレーのワインツーリズムにおけるエコシステムを事例に—
井上葉子・池上重輔・八木京子 … 21

A study on personality trait extraction considering user's ego state, and
service development adapted to personality traits using ACL
平林信隆 …………… 41

ボード・ダイバーシティは投資意思決定に影響を与えるか？
松田千恵子 …………… 63

研究ノート

日本の「筆産業」の存続を可能にしている産業構造の特徴
平見尚隆 …………… 79

消費者による商品パッケージの「顔」認識
—化粧品企業の「顔文化」を事例とした考察—
宮本文幸 …………… 93

講演抄録

目前に迫るネクストパラダイムとは
—VUCA時代の中、日本の進むべき方向を問う—
出井伸之 ……………111

学会賞……………125

学会だより……………131

(投稿規程：巻末)

